

## ● ソシオメディア株式会社 代表取締役、情報デザイン・コンサルタント

- "Sociomedia": 理解に満ちた社会を実現するためのメディア
- デザイン・コンサルティングファーム
  - ユーザーインターフェース設計
  - ユーザビリティ評価
  - 対象：インターネットサービス、業務アプリケーション等のインタラクティブメディア
  - UIに関する研究成果やノウハウを各種メディアで積極的に発信中

[www.sociomedia.co.jp](http://www.sociomedia.co.jp)

## ● 「DESIGN IT!」 主宰

- DESIGNとITとの融合によって、組織や企業の変革を進めることを目指す活動体
- 「DESIGN IT! Conference」 (2005～)
- 「DESIGN IT! magazine」 (6月16日創刊、リックテレコム刊)
- 「DESIGN IT! BOOKS」 (毎日コミュニケーションズ刊)

## ● 研究活動

- NPO法人 人間中心設計推進機構 評議委員 (2005～) 同理事 (2007～)
- 財団法人 日本科学技術連盟 ソフトウェア品質管理研究会 (ソフトウェア・ユーザビリティ) 主査&アドバイザー (2002～)
- 武蔵野美術大学 視覚伝達デザイン学科 非常勤講師 (2001～)
- 多摩美術大学 情報デザイン学科 非常勤講師 (2000～2006)
- 東京農工大学 ユビキタス&ユニバーサル情報環境 非常勤講師 (2007～)

[www.designit.jp](http://www.designit.jp)





# 「CiNii」ユーザビリティ評価プロジェクト 概要

## ● ヒューリスティック評価

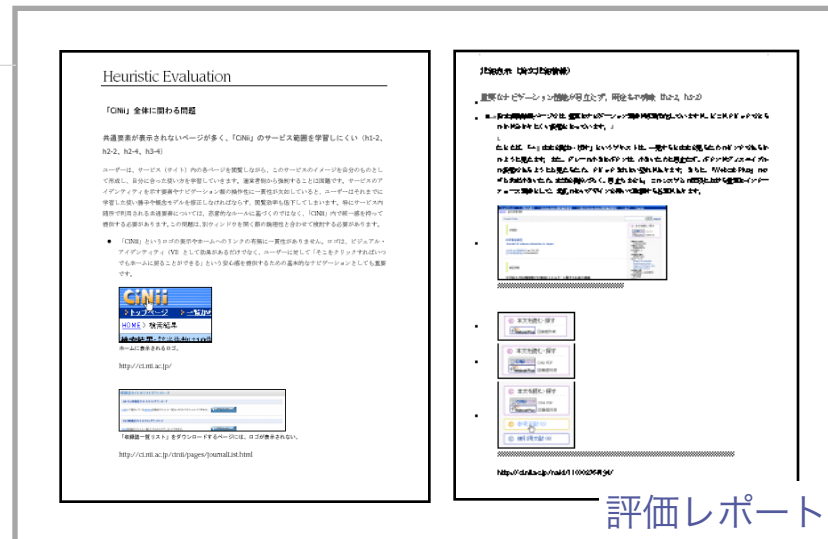
- ユーザビリティ専門家が、評価対象全体から網羅的に問題を抽出

## ● ユーザビリティテスト

- ヒューリスティック評価の結果を受けて、テスト用課題を作成
- 実際のユーザーが操作し、その際に発生した問題を抽出

## ● 改善案の導出

- 上記2種類の調査結果を受けた、改善案の導出



# ヒューリスティック評価／ユーザビリティテスト結果

## ● サービスの訴求点や存在意義は明確

- 「国立情報学研究所が提供する、信頼性の高いサービスである」
- 「論文を検索し、その本文をすぐ閲覧できることが便利である」

といったコメントをしたユーザーが多数存在

## ● 「詳細検索」を使う傾向

- 主なユーザーは CiNii のホームから「詳細検索」を使う傾向が強い
  - ただし、詳細検索欄でフリーワードのみを入力したり、著者・雑誌名・出版年などと組み合わせるなど、使い方は様々
- 利用し慣れていないユーザーには、基本的な検索作業を開始する時点での混乱要素を排除することが不可欠

## ● 最終コンテンツ（本文）に辿りつくまでの導線上に混乱要素が多い

- せっかく用意されている「本文へのリンク」をうまく使いこなせないユーザーも存在する

## ● 改善策

- 一般的なウェブシステムとしてのユーザビリティと、文献検索に特化されたアプリケーションツールとしての有用性の双方を確保することが必須。
  - このバランスがとれていないと、ユーザーの作業効率や満足度が不完全なものになる。

## 学術情報データベースのUIデザインが意味するもの

### ● 情報は、見つけられなければならない

- 学術研究の成果は、情報として記録される。情報がなければ、学術研究は無いのと同様
- しかし情報があっても、あることがわかり、また見つけられなければ、やはり無いのと同じ
- データベースは存在するだけではだめ。それを見通す窓(Window→Interface)をクリアにするデザインが見つけやすさ(Findability)を実現し、見つけられてはじめて「データ」が意味のある「情報」となる

### ● 情報は、つながらなければならない

- 学術研究は、他の研究成果を礎とする
- 「つながりをみつけること」「つなげること」のない研究は存在しえない
- 情報が保存され見つけられるだけでなく、情報と情報が有意に関連することで、その価値が質的に変化する

### ● 情報が見つけられやすく、つながりやすくすることは、学術研究の発展に直結

# 遍在する情報と 遍在するユーザーが 世界を開く

- **偏在から遍在へ** — インターネットで世界は変わった
  - インターネット以前 [偏在の世界]
    - 情報は特定の場所に集中していた
    - 多数の「特定の場所」が存在し、それらは分散していた
  - インターネット以後 [遍在の世界]
    - 「特定の場所」が接続され、ひとつの大きな情報データベースが生まれた
    - 「専門家向け」と「一般向け」の情報の有意義な接続 = 「向け」という障壁の無意味化
- **アクセシビリティの果てしない増大**
  - だれでも、どこでも、何によってでも、情報をみつけ、利用することができる世界
  - だれでも、どこでも、何によってでも、情報を生み、共有することができる世界
- 情報をコントロールするのではなく、**情報をナビゲートするのが専門家の役割**になる
  - いまだ「特定の場所」を作ろうとするケースが多いが、無意味でありまた害悪である
  - もはや情報は囲い込めないし、囲い込むべきではない
  - 情報を限りなくオープンにすること
  - 遍在する情報をつなげて意味を見出し、それを伝えること
  - これらはもともと、「学術」や「科学」の本質である
  - 学術にとって本当に幸福になれる基盤はすでにある。あとは本質の実現にむけた「使えるツール」だ